

行仙宿・熊野修験奥駈修行支援と作業体験研修準備など

◇実施日：平成27年05月20日(水) 天候：晴

◇参加者：豊嶋 寛、沖崎吉信、児嶋道夫、濱野兼吉、川島 功、

畑林秀味、橋本 祥、梶野照雄。

計8名。

熊野修験奥駈修行(23日～24日；玉置山↓行仙宿↓前鬼)が実施されますが、行仙宿に40名宿泊され、その賄い方は山上さん統括のもと、女性陣主体で約10名が準備されるそうですが、当日荷上げするには心許なく、沖崎氏の呼掛けで事前に荷上げすると共に作業体験研修の準備などをかねて実施する。

爽やかな五月晴れとなり、気分もすがすがしくなる。

登山口で熊野修験関係の荷物約50kg弱とトイレ紙等の必需品及び渡り廊下床材・工具類など、新宮組7人が手分けして背負子につけ担ぐ。

補給路登山口階段では、先日滑り落ちる事故の発生があったが、17日手摺と各階段に滑り止めテープが本人の手で貼られ対策がされていた。樹林の中の山道は涼しいが、浦向道分岐から第二ベンチ迄の尾根道は陽をまとも浴びて暑く汗が一気に噴き出す。佐田ノ辻に上ると、汗も引いて行く。

児嶋氏はLED電灯整備と太陽電池パネルの清掃、畑林・濱野氏は、管理棟内のテント、寝袋の確認、その後畑林氏はトユ掃除。

沖崎氏はトイレ詰り防止策として、使用後のトイレ紙などを便槽に捨てずに、一時保管する容器を設置し状況を見ることにする。

川島、豊嶋、橋本、その後沖崎氏も加わり、移動・嵌め込み式渡り廊下の据付作業をする。

予想外に飾り鉋留めがしてあり、そのため床受けの板を添わす事が出来ない。ノミを持参していなく、鉋高き迄鋸挽きして、石ノミ状のコテを見つけて、ようやく溝を彫ることが出来た。

床板(厚さ3cm)を切る際に、金尺で直角に墨付けせずに切ったので少し斜めとなり、きっちり嵌め込めない、鋸で再調整して板6枚(約72cm)の渡り廊下を完成させる。

この渡り廊下により、玄関幅(約98cm)を飛び越え移っていたので、玄関を挟んでの行き来が安全に渡り易くなる。後日、更に72cm幅の渡り廊下を作製したい。

一段落後、濱野、橋本、沖崎、豊嶋、川島は、水汲みに行き12時前から昼食とする。



登山口での荷造り



完成した移動式渡り廊下



心地良い汗後の昼食

昼食後、40名宿泊となると宿内の物は、全て宿外へ出す事になる事から、宿内の物を整理し、廃棄する物、使わない物は資材倉庫と発露電機室に一時移管する。

作業体験研修を控え、沖崎氏は食材等の在庫を再チェック。

下山準備していると、堺市を9時に発ったが交通事故に二度遭遇して1時間以上遅れたと、梶野氏が思いがけず13時30分頃に行仙宿に上

って来られる。17日に食台脚取付に來られたばかりである。

今日は、LED電灯増設・移設の採寸と玄関高さが高く踏み台作製の採寸に來たとのこと。

積極的に不具合解消に取組んで下さり頭がたれます。

「お菓子を持って來たので、折角だからお茶にしようや!」との声にお湯を沸かし、紅茶と児嶋氏持参のドリップ・コーヒーでしばらく談笑する。室温23℃もあるも本当に心地良い、下界は暑いだろうな?」

梶野氏に発電機の取扱・操作を教える。みどりの日に植樹したオオヤマレンゲは、青々として活着したと思われる。

14時半過ぎ梶野氏一人残し下山する。尚、梶野氏は日帰り。



LED電灯設置ご二人

紅茶・コーヒータイム! 登山口で本日の作業終了

行動タイム

新宮7:00→8:45補給路登山口8:55→9:45行仙宿10:00→各自作業→
水汲み11:00→11:45昼食12:50→行仙宿14:35→登山口15:10→北山
村・西山経由→16:50新宮。

(記 川島)